

表題：第19回瑞穂町の協働を考える会議 概要

- 1 日 時 平成26年11月11日（火曜日） 18時35分から20時10分
- 2 場 所 町民会館第1会議室
- 3 出席者 （構成員） ※以下出席者について敬称略
加戸佐織、香取幸子、古宮郁夫、川口尊、中沢清、野本多恵子
（瑞穂町協働施策推進アドバイザー）
辻山幸宣
（事務局）
横澤和也（住民部長）、古川実（住民部地域課長）、水村探太郎（住民部地域課地域係長）、吉岡佐知代（住民部地域課地域係主任）、福島聡（住民部地域課地域係主任）
- 4 欠席者 （構成員）
榎本和己、清水久央、近藤隆幸
- 5 議 題 1 協働宣言の実現に向けた提言について
2 その他
- 6 配付資料 1 次第（当日配付）
2 第18回瑞穂町の協働を考える会議まとめ（事前配付）
3 提言書（案）（事前配付）
- 7 あいさつ
平成26年11月1日付け人事異動により事務局に異動があったため、議題に入る前に横澤部長からあいさつ
- 8 開会
古宮座長

議題1 協働宣言の実現に向けた提言について

事務局説明

- ・ 内容について文章の過不足、表現、項目の分類などを確認してください。
- ・ 会議開催通知文に「最終的な修正作業」と記載してしまいましたが、修正作業は本日の会議だけではなく、翌年の2月まで議論していただくことを考えています。
- ・ 事務局では、提言書を3章構成にしたいと考えています。第1章に町の現状や協働が必要となっている理由などの内容、第2章に提言、第3章に資料編としてパブリックコメント等入れ込む予定しています。

【これまでの経過について】

- ・ 第10回の会議において自由討議で議論した内容をもとに提言書としてまとめるべき柱を事務局から提示されました。その後、辻山先生と事務局の方で調整した柱が第15回会議で提示され、それをもとに計3回のワークショップを行い今回のまとめに至りました。
- ・ 1年半議論してきた集大成となるので、解り易くそして実現性の高いものにしていきたい。

【提言書に関する全体的なことについて】

- ・ 提言書をつくるのも必要なことだと思いますが、もっとアクションプランなど具体的なことを話し合える場があると思っていました。委員と事務局側との考え方にギャップがあったように思えます。
- ・ 「瑞穂町における社会貢献団体との協働に関する指針」を平成18年度に策定して8年が経過していますが、この中には職員に対する研修のことも言及されています。現在と比べても理解度が深まったと感じられない印象があります。「やるにはやったんだけど止まっている。」ということにならないような提言書にすべきだと思います。
- ・ 来年3月まで私たちはどこまでやっていくのかをきちんと決める必要があると思います。
- ・ 提言の内容を実際にどのようにしていくかは受けた側が検討していくことでしょうから、受けた側の心をどのように動かして納得してもらうかという提言書をつくる必要があると思います。
- ・ 良い形で提言書をつくれるかどうかは、今後協働が上手くいくかどうかにも関わってくると思っています。
- ・ これから宣言を実現化していくための行程が出てくるのか、または提言書ができたら終わりになってしまうのではないかという不安があったりした中で、それならもっと具体的に動いた方が良くはないかという思いがありました。
- ・ 協働の指針がありますが、他の市町村の動きを見るともっと具体的といいますかスピーディーですね。そうすると瑞穂町ももっと本腰を入れて具体的に動いていくための担保も欲しいなと感じます。

【提言書（案）の内容について】

- ・ いかにか委員の気持ちが盛り込まれ、形が見えて先に進めていくためには内容を抽象的ではなく具体的にすることがどうかということだと思います。
- ・ 宣言を策定した過程は載せる必要はないと思います。むしろ「宣言の実現に向

けてまい進していきます。」という提言にすべきだと思います。

- 宣言文に「行動します」、「分かち合います」となっているので、「考えられます」という表現を「していきます」という表現にしないと提言にならないと思います。
- ある程度イメージできるようにもっと具体的になっていないと分かりづらいと思います。例えば、出会いの場づくりといってもそれがどの辺りなのかということですね。
- 提言に基づいて実施できるような内容にしないといけないと思います。
- 大きい枠の提言の方が良いと思います。あまりに細かい内容を提言に入れてしまうと「これは提言に入っていない。」といったことが出てきてやりづらくなってしまいますので、いろんなことが含まれるような提言書にまとめた方が良いと思います。
- ある程度絞ってから足りないものに気がついたときに補則していくといったこともあるでしょうが、絞っていく必要があると思います。
- 大事なことはこの案の中にある程度集約されていると思うので、内容としては良いと思います。
- （三鷹市市民協働センターの資料を例に）センターの役割や部分的にでも瑞穂町にあったら良いところなど、具体的にイメージが沸くようなものがあった方が、実現に向けて具体的なものになるのではないのでしょうか。
- 町も新たな担当部署を設けたり人を抱えたりというのは情勢として難しいと思いますので、運営について三鷹市の事例は興味があります。このような組織を青梅市でもつくっているところがあるようなので、具体的な形も案としてある程度表現もできればと思います。
- 数10年後、いくつかの市町村がなくなってしまうというデータもあるようですが、今後は高齢者の医療負担対策とかインフラの整備も必要となってくる訳で、『議会のひろば』でも町長の踏み込んだ答弁が書いてありましたが、役割分担とか棲み分けをして、どうしても協働が必要で具体的な活動をしていく必要があることを具体的に提言に入れた方が良いと思います。
- 今後進めていく姿勢であるとか、推進委員会で進めていくことなど、具体的なことを入れていくのが良いと思います。
- 瑞穂町の投票率は東京都でも低いという話を以前にもしましたが、あまりにも関心がなさ過ぎるので、町民も一緒になって協働というものの中で考えてもらいたいというのがありますね。
- NPO「つくし」では気軽にお茶を飲みに来れるような場として、サロンを月に2回行っています。

- ・（新聞記事「つどい場さくらちゃん」に学ぶ地域ケアを参考に）介護保険でも対応できない人たちが、ちょっとしたことで駆け込める場が必要ということですが、瑞穂町の人たちに寂しい思いをしてもらうのではなく、どこかにいける場所ができるのであれば、町で協働として認めてもらい、各地域に場所をつくれたら良いと思いました。
- ・「つくし」の事務所に相談に来られる方も認知症であったり、若年性アルツハイマーであったり、地域で活動していると様々な情報が入ってきます。広い意味での協働ではありませんが、地域に広げられれば良いと思います。
- ・運営費用については、サロンは1年経つと社会福祉協議会から人数に合わせてお菓子代をいただき、団体の活動は毎週火曜日なので月に4回で2万円くらいです。
- ・市町村によっては男女共同参画センターというところをつくっているところもありますが、福祉関係も男女共同の関係も一括して考えることができれば、効率の良い問題解決ができると思いますので、まとめて扱える場所が必要だということを提言の中に入れてはどうかと思います。
- ・三鷹市のようなセンターをつくるのは難しいと思いますが、町にはコミュニティセンターもありますので、既存の施設をうまく三鷹市のような機能を備えた施設として考えていくことは十分可能ではないかと思います。
- ・誰が見ても解り易くシンプルなものが良いと思います。どうしても言葉を使わなければならないこともあると思いますが、きちんとした形をつくるのと同様進行で、ぱっと見て流れとかイメージがつかめるようなものが良いと思います。
- ・具体例を見せないと分からないと思います。これを読むことよりも、活動していく中で「実はこういうことなんだ。」と分かるような進め方でも良いと思います。
- ・宣言を見て協働をやりたい人がいても、どうしたらいいのかとなったときにそこで止まってしまっては困るので、方向性として具体的に分かるようなことを形として表現した方が良いと思います。
- ・この会議の委員と協働のようなことを始めても良いと思いました。
- ・お金があまり絡まないところで協働のようなことができると敷居が下がるのではないかと思います。
- ・相談する相手が東京都や国の場合は町が間に入って欲しいということもあります。一括して問題を取り扱えるようなものとして先程例に挙げた三鷹市の協働センターが参考になると思いました。
- ・委員はそれぞれのスタンスに基づいた協働をされていると思いますので、それぞれの思いをすべて提言にまとめるのは難しいと思います。

- ・ 議会答弁でも「協働で乗り切る。」といている訳ですから、町は具体的に協働をしていかないといけないと思います。ですから、町民も一緒に入って具体策をつくっていくという道筋が今後できていくのではないのでしょうか。
- ・ 広い枠でどのようにでも捉えられる内容であっても良いと思いますが、どの市町村にも当てはまるような内容であることが問題だと思います。瑞穂町ならではの内容になっていないと具体性に欠けてしまうと思います。
- ・ 「提言を申し上げます。」とか「必要であると考えます。」という表現ではなくて、「これをぜひともやっていただきたい。」というくらいの強い意志を持った文章に替えても良いと思います。
- ・ パワーポイントを使ってプレゼンするような感じで、ビジュアル化しても良いと思います。

事務局より

- ・ (来年4月以降も会議は続くのかという質問に対して) まだはっきりしたことは言えませんが、これからも住民の方に集まっていただき、協働を推進していくためにはどういったことを検討していけばよいか個別具体的に議論していただく場は必要だと思います。
- ・ この会議では、協働宣言の策定と宣言実現のための提言書を作成することを3月までに検討していただき、理事者に報告するまでを着地点としています。
- ・ (提言書は宣言と提言に基づいた実施の中間的な位置づけになっているのかという質問に対して) そのとおりです。道しるべとして宣言を定め、今後実現していくための手法をどうするかということです。会議としては、提言書を理事者側に提出し、理事者側は提言があったことから動きが生まれますので、事業の実施にもつながってくると思います。
- ・ (ボランティアセンターの運営に関する質問に対して) 社会福祉協議会で運営しています。サロンも出会いの場として行っています。高齢者の施設としては殿ヶ谷地区にいこいの場が建てられ、運営を地域の方々に任せています。出会いの場づくりは少しずつ進めています。

結 論

- ・ 現在提言書の作成作業を進めていますが、事務局では、提言書を理事者側に提出した後も協働の議論を進めていく場が必要であると考えており、その概要を今後示すこととしました。
- ・ 文章の修正が必要であると考えられる場合は、各自で次回会議までに事務局に修正案を提出することとし、修正内容をまとめた提言書(案)の配付時期は事

務局で判断することとしました。

アドバイザーからの講評

- ・ 確認しなければならないのは、提言というのは誰が誰に対してするかということです。会議から町に対して行うのか、会議から町民に対して提言するのですが、これを考えると町民に対して提言するというのはなくなると思います。
- ・ 提言の内容ですが、宣言を実現するために、これが無ければおぼつかないという内容を列記することになると思います。
- ・ 資料を見ますと、周知活動をやりなさい、そのためには協働のマークのようなものをつくってはどうかということが書かれています。それから、担当窓口や部局をつくりなさいということや人々が集まる場を提供するなりつくるなりしなさいとあります。つくるといっても三鷹市のようなセンターをつくりなさいというのは金銭面で難しいと思います。そして、施設の充実や場の提供システムの開発とか、ニーズの把握、町民同士の交流を促進する手立てを考えなさいということも書いてありますね。最後のページでは職員をコーディネーターとして育成しなさいとか、組織が現在のような縦割りではだめだとか、協働事業がスムーズにできるよう手続化しなさいよということが書かれています。こうして見ると内容としては結構出揃っているのではないかと思います。
- ・ この協働宣言を皆さんがよく読んで、1つ2つやってみようかなと思ったときに、この宣言では何もできません。そのときに何が必要なのかということで、町に制度を求めるのかどうかがありますが、例えば仲間が必要、場所が必要、支援が必要というようなことに対して支援をするといっても職員なのかお金なのか情報なのかイメージが抱けるようなものでないと、この宣言を読んで感激したけどどうすれば良いか分からないということで終わってしまう、という人を増やさない手立てを考えることは必要ですね。そうすると皆さんが先程言われていたことを列記すれば良いのではないのでしょうか。
- ・ 文章の末尾を「こうせよ。」程度の修正でも良いと思います。
- ・ 解り易い手法としては、ある活動に対してやって欲しいことがあったときに、行政にやって欲しいことをいくつか列挙して提案する制度もありますし、常設でそういうことを取り上げてくれるような行政との出会いの場のようなものをつくって意見交換をするというのがありますし、そういうイメージが提言の中に感じられるようなものにしていくことが大事だと思います。
- ・ 行政もできないことはできませんので、幅は認めるけどもフリーハンドにしてしまうのもどうかと思いますので、どうやってイメージをもって伝えていけるか検討することが必要だと思います。

- ・ 提案にあったように、施設を充実させなさい、施設の使い方を考えなさいなどいろいろあるのですが、そこから何が生まれるのだろうか、ということ学ぶことが重要かもしれません。

議題2 その他

事務局説明

- ・ 次回の会議日程を調整

【その他】

- ・ 三鷹市市民協働センターへの見学の希望者は後日委員に連絡してください。
- ・ 見学の日程等が分かれば事務局にも教えてください。